

東播地域を拠点に活動するサッカークラブ「神野SCアマザージ」が2014年度の県クラブユースサッカー(U-14)新人戦で初優勝を飾った。昨年11月に開幕、12月下旬に決勝

という長丁場で全10試合を戦い抜き、県内53クラブの頂点に立った。試合を戦うごとに成長を見せた選手らは喜びに浸った。

(小林隆宏)

県クラブユースサッカー(U-14)新人戦

登録メンバーは中学1、2年生の23人で、ほぼ全員が起用された。「勝つにつれてチームが盛り上がり、練習から戦いへの意識が変わった」と鬼澤志実主将(14)は加古川市加古川町木村は話した。大会期間中にけが人が出た影響から戦術面で速攻を重視。決勝では鬼澤主将と米原陸選手(14)の2トップがゴールを奪うなど好結

大会は10グループの1次リーグ、各グループ上位による2次トーナメント、16チームによる決勝トーナメントの方式で行われた。神野SCは1次リーグを2勝2分けで2位通過。2次トーナメントでは2戦目で強豪のヴィッセル神戸伊丹に敗れたが、決勝トーナメントに進むと、準々決勝、準決勝とPK戦を勝ち上がり、決勝ではヴィッセル神戸伊丹を2-1で破り、雪辱を果たした。

速攻重視の戦術展開 試合ごとに選手成長



果に結びついた。同SCでは週5回の練習で、ボールのキープ力など個人技術を熱心に指導している。三好康成コーチ(37)は「個の力があつた」と、79・447・290大会を振り返る。鬼澤2

「神野SC」が初優勝

県クラブユースサッカー新人戦を制した神野SCの選手ら=加古川市加古川町大野